

大会レポート

# 第76回都市計画全国大会 ～三重県津市～

龍ヶ崎市都市整備部都市計画課 副主幹 櫻井 翔馬

## ■はじめに

令和6年11月14日から15日の2日間にわたり、三重県津市にて、公益財団法人都市計画協会主催の第76回都市計画全国大会が開催されました。大会には全国各地より参加者が集い、都市計画に関する表彰、事例発表や意見交換、現地調査などが行われました。



## ■大会1日目

三重県県土整備部理事による開会宣言の後、石井都市計画協会会長による主催者挨拶、三重県知事・津市長・国土交通省大臣（代理）の挨拶があり、続いて、都市計画協会会長賞などの各種表彰が行われました。

全体会議としては、国土交通省大臣官房技術審議官の服部卓也氏より、能登半島地震への対応や、まちづくりGX、盛土による災害防止に向けた取組など、都市計画行政をめぐる最近の動きについての報告がありました。

本年度の部会は、第1部会「まちづくりDXにより先進的な都市サービスを提供したスマートシティの実現」、第2部会「観光を核としたサステナブルなまちづくり」、第3部会「市民が誇りに思う全世代の交流拠点となる公園づくり」の3つの部会からの選択制となっており、私は第1部会に参加しました。

第1部会では、三重県四日市市、埼玉県熊谷市、長野県茅野市から、それぞれの自治体で行われている先進的な取組についての報告がありました。

### 【報告1】四日市スマートリージョン・コアについて

四日市市では、近鉄四日市駅やJR四日市駅の駅前広場の整備や両駅を結ぶ幅員70mの中央通りを歩行者中心の街路空間とする中央通り再編、バスターミナル

の整備、都市公園の再編、図書館や大学などの都市機能誘導などに取り組んでいます。その中では、グリーンインフラの観点を取り入れたウォークアブルな街並みの整備や、AIカメラ、自動運転バスなどのスマート・インフラの整備を行っているとの報告がありました。

### 【報告2】「熊谷スマートシティ」の実現に向けたDXの推進と3D都市モデルプロジェクト

熊谷市では、人口減少社会においても持続可能な都市を実現するため、デジタル手法を活用してまちの活性化に取り組むことが課題であるとししました。このため、3D都市モデルを整備し、風・温熱環境シミュレーションや災害リスク可視化事業、まちづくり可視化事業など、様々なユースケースを開発し、市のまちづくりに活かしているとの報告がありました。

### 【報告3】3D都市モデルによるまちづくりDXと行政DXの推進に関する取組

茅野市においても、熊谷市同様、3D都市モデルの整備を行いました。最も特徴的なユースケースとしては、開発許可申請に関する相談等のシステム導入による効果検証です。基本的な相談に関しては全てシステムで行い、かつ3D都市モデルによる視覚的な地図表示ができるものになります。この検証の結果、行政側としては、各部署で対応件数の削減がみられ、また事業者側としては、情報収集にかかる負担軽減ができるなど、大きな効果が確認できたとの報告がありました。



### 四日市市による報告の様子

記念講演では、三宅三重大学教授により、「社会変革時代に求められるまちづくりの途」と題して、これまでの日本の都市計画の特徴を踏まえながら、今後の都市計画においてはどのような特徴が求められるのかを、様々な観点から分析するといった内容の講演をいただきました。





## ■大会2日目

亀山市、四日市市、いなべ市、桑名市における都市計画事業などの現地調査に参加しました。

### ○亀山駅周辺地区（亀山市）

亀山駅前の再開発について見学しました。概要としては、駅前に公益施設、共同住宅及び商業施設の複合建築を行ったというものです。公益施設については図書館が併設されており、市民の憩いの場となっています。



公益施設

亀山駅前線

### ○ニワミチよっかいち（四日市市）

部会でも報告があった四日市市の中央通りを見学しました。歩行者中心の街路空間にするため、車線を削り、歩道を増やすというゆとりある空間形成事業となっており、完成された箇所は、所々に木のぬくもりを感じるベンチや多種多様な植栽が施されており、まさに歩きたくなる街並みという印象を受けました。また、各所にセンサなどの情報通信機器が整備されており、スマート・インフラとしての側面も見受けられました。



歩道の様子

情報通信機器

近鉄四日市駅前では、これからの市のシンボルとなる円形デッキの建築が進められておりました。



円形デッキ建設現場

完成予想図

自動運転バスの実証実験も行われており、次世代の新たな移動体験を提供していました。



ニワミチよっかいちHPより

### ○にぎわいの森（いなべ市）

いなべ市庁舎に隣接した、にぎわいの森を見学しました。新たに整備された散策路を通り、いくつかのヒュッテ（小屋）を巡るといった憩い・空間が形成されていました。



案内図

ヒュッテ

### ○桑名駅周辺地区（桑名市）

桑名駅とその周辺を見学しました。駅舎が新しくなるとともに、新たに線路を跨いだ東西自由通路を設けています。また、ロータリー周辺では土地区画整理事業が行われており、これに伴った都市計画道路の整備により、駅へのアクセス性向上が期待されています。



自由通路入口

桑名駅西土地区画整理事業

## ■おわりに

大会を通して、現地調査で拝見した、各自治体の工夫が凝らされた事業は非常に印象的でした。容易に真似できるものではありませんが、ここで体感したことを本市の今後の事業のヒントにできればと思います。